

称号及び氏名 博士(看護学) 大江 理英

学位授与の日付 平成30年3月31日

論文名 救命救急センターに勤務する看護師の自律性尺度の開発

論文審査委員 主査 杉本 吉恵
副査 箕持 知恵子
副査 中山 美由紀
副査 北村 愛子

論文内容の要旨

【目的】

救命救急センターに勤務する看護師（以下、救急看護師とする）は、限られた時間と情報の中で救命を目的とする迅速な判断と対応が求められる。さらに救急患者や家族の代弁者として人権を尊重する役割がある。しかし、救急看護師の自律性を測定できる尺度は開発されていない。そこで救急看護師の自律性を測定し、救急看護師の自律性を高める基礎資料を得るために、本研究は救急看護師の自律性を明らかにし、救急看護師の自律性尺度（Autonomy Scale for Emergency Nurses 以下、ASENS とする）の開発と信頼性と妥当性を検証することを目的とする。

〈用語の操作的定義〉自律性：専門的な知識や技術に裏付けられた自主的・主体的な判断に基づき、イニシアチブや責任を取り行動すること。

【研究方法】

本研究は、予備研究により救急看護師の自律性を抽出した結果より、ASENS 原案を作成し、表面妥当性、内容妥当性を検討する。次いで ASENS 案の構成概念妥当性・信頼性・基準関連妥当性・安定性を検証する 2 段階で構成した。すべての研究は、大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】

予備研究：救急看護師の自律性の抽出

救急看護師 15 名を対象に自律性の内容について半構成的面接を行い、質的帰納的に分析した（2015 年 1 月～8 月）。その結果、救急看護師の自律性は、83 コード、21 サブカテゴリーからなる 6 カテゴリー【救急患者と救急の場への判断に基づく行動】、【救急患

者と家族のニーズを引き出し充足するための行動】、【看護師と救急患者・家族との協働を促進する行動】、【救急患者・家族の人格を尊重するための行動】、【救命のために医療チームで協働すること】、【看護ケアの質を維持・向上させるための行動】が抽出された。

本研究 1 : ASENS 原案の作成と表面妥当性、内容妥当性の検討

1) 本研究 1-1 : ASENS 原案の作成

予備研究の結果を参考に 83 項目からなる ASENS 原案を作成した。

2) 本研究 1-2 : ASENS 原案の表面妥当性と内容妥当性の検討

急性期看護学を教授している大学教員と救急看護領域の勤務経験を有する急性・重症患者看護専門看護師と看護師の 7 名を調査対象にした。フォーカスグループインタビューで、各概念と尺度項目の妥当性や整合性、回答しやすさや尺度項目の順序性について表面妥当性を検討した (2016 年 6 月～8 月)。その結果、6 概念 84 項目からなる ASENS 原案となった。

3) 本研究 1-3 : ASENS 原案の内容妥当性 (I-CVI) の検討

急性期看護学を教授している大学教員と救急看護領域の勤務経験を有する看護師 10 名を調査対象にした。ASENS 原案の各概念と尺度項目について妥当性を問う無記名自記式質問紙調査票を実施した (2016 年 8 月～12 月)。有効回答は、8 名であった。得られた結果より、内容妥当性指数 (item-level content validity index : 以下、I-CVI とする) 値を算出した。その結果、I-CVI 値が 0.78 未満であった 7 項目を削除し、ASENS 案として 77 項目が採択された。

本研究 2 : ASENS 案の構成概念妥当性・信頼性・基準関連妥当性・安定性の検証

全国の救急看護師 3408 名を対象に、研究協力者の属性、ASENS 案、看護の専門職的自律性測定尺度、小谷野開発 DPBS 日本語版尺度、職務満足測定尺度からなる無記名自記式質問紙調査を実施した (2017 年 1 月～7 月)。その結果、有効回答 434 名 (有効回答率 12.7%) を分析対象とした。

構成概念妥当性の検証では、項目分析を経て、因子分析 (主因子法、プロマックス回転) により、3 因子 37 項目が抽出された。ASENS 案の各因子と尺度項目を検討し、解釈が困難と判断した 4 項目を削除した。再度、因子分析を行った結果、ASENS は「患者・家族を擁護する行動」、「治療を推進する行動」、「回復に向けた患者・家族への支援」の 3 因子 33 項目で構成される尺度となった。既知グループ法では、救急看護経験年数が 8 年前後のグループ間において ASENS 総点を比較し、救急看護経験年数 8 年以降のグループの ASENS 総点が有意に高いことを認めた ($p < 0.00$)。

信頼性として内的一貫性である ASENS 総点の Cronbach's α 係数は 0.94 であった。基準関連妥当性は、ASENS 総点と各尺度の総点の相関で検証した。「看護の専門職的自律性測定尺度」総点で有意な正の相関 ($r_s = 0.66$, $p < 0.01$)、「小谷野開発 DPBS 日本語版尺度」総点で有意な正の相関 ($r_s = 0.43$, $p < 0.01$)、「職務満足測定尺度」総点で有意

な正の相関 ($r_s=0.29$, $p<0.01$) を認めた。安定性の検証は、2 回目の ASENS の調査では 201 名より回答が得られ、すべてを分析対象とした (有効回答率 5%)。ASENS の各下位尺度間 ($r=0.52\sim 0.74$, $p<0.01$)、総点間 ($r=0.72$, $p<0.01$) とともに有意な相関を認めた。

【考察】

「患者・家族を擁護する行動」、「治療を推進する行動」、「回復に向けた患者・家族への支援」の 3 因子 33 項目で構成される ASENS を作成した。

ASENS は構成概念妥当性, 信頼性, 基準関連妥当性, 安定性を確保していると考えられた。

学位論文審査結果の要旨

本研究は、救命救急センターに勤務する看護師の自律性を明らかにし、その看護師の自律性尺度を開発することを目的としている。

救命救急センターは、重篤な救急患者への医療を確保する目的で設置された三次救急医療機関である。近年では、少子高齢化、疾病構造の変化により、救急患者は超高齢化し、慢性疾患の増悪に対する救命治療が増加してきている。救命救急センターに勤務する看護師は医師主導の救命処置における診療の補助のみならず、生命危機状態にある患者やその家族に対して看護の視点から支援を行うことが求められている。さらに国民のニーズも多様化し、患者の生活の質を向上させるため退院後の生活再構築も見通した質の高い救命治療、看護ケアが求められている。すなわち救命救急センターに勤務する看護師には専門的な知識や技術に裏付けされた自主的・主体的な判断に基づき、イニシアチブや責任を取り行動する自律性が求められる。より質の高い看護ケアを提供するために救命救急センターに勤務する看護師の自律性を明らかにし、その看護師の自律性を測定できる尺度を開発した研究は独創性が高い研究である。

救命救急センターに勤務する看護師 15 名への半構成的面接にて、看護師の自律性として患者・家族への具体的な看護実践への行動を抽出した。この結果から尺度項目を作成し、急性期看護学の専門家を対象にフォーカスグループインタビュー、内容妥当性指数の算出を行い、尺度項目の表面妥当性と内容妥当性を検討した。全国の救命救急センター284 施設に勤務する看護師 3408 名に質問紙調査を実施し、有効回答が得られた 434 名を分析対象として、項目分析、探索的因子分析を行った結果、救命救急センターに勤務する看護師の自律性尺度は 3 因子 33 項目から構成され、構成概念妥当性、信頼性、基準関連妥当性、安定性を有する尺度であると確認できた。

開発された救命救急センターに勤務する看護師の自律性尺度は「患者・家族を擁護する行動」「治療を推進する行動」「回復に向けた患者・家族への支援」という 3 因子から構成され、その尺度項目はこれまでの看護師の自律性尺度で表現されていた看護師自身の認知能力や有用性・有能性の認識ではなく、救命救急センターで求められている患者・家族への具体的な看護実践の行動として表現されたものとなった。

以上のことから、本研究の成果は急性期看護学領域の実践、研究の発展に寄与する学術的価値を有する優れた博士論文であり、学位の授与に値するものと判断した。